

公益社団法人 日本地下水学会
2017年度 第6回 理事会議事録

1. 開催日時：2017年10月7日（土） 14:30～19:15

2. 開催場所：日本工営(株) 九段オフィス 中庭棟4階 第1中会議室
〒102-0073 千代田区九段北1-14-1 九段坂上KSビル

3. 理事総数：15人

4. 出席理事数：14人 ○：出席、×：欠席

理事	伊藤 浩子	○	理事	蛭原 雅之	○
理事	小野寺 真一	×	理事	川端 淳一	○
理事	坂本 大	○	理事	白石 知成	○
理事	鈴木 弘明	○	理事	瀬尾 昭治	○
理事	竹内 真司	○	理事	谷口 真人	○
理事	徳永 朋祥	○	理事	中川 啓	○
理事	中島 誠	○	理事	古川 正修	○
理事	町田 功	○			

5. 出席監事数：2人 ○：出席、×：欠席

監事	平山 光信	○	監事	深田 園子	○
----	-------	---	----	-------	---

6. 議長の氏名：理事 谷口 真人

代表理事 谷口 真人は議長席につき、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、14時30分本理事会の開会を宣した。

7. 代表理事の活動状況：

国交省の地下水見える化（マッピング）作業について次の理事会にて内容を紹介する。World Water Forum（2017年9月20～22日）に出席し、日本での活動を紹介した。また韓国より次年度のIAHに積極的に参加して欲しいとの依頼があった。IAH2017（クロアチア）に参加したが、その際、欧州は若手育成に関して国同士が戦略的に連携しているが、アジアは連携に至っていないと感じた。また、宮越氏がNational Chapterの会議に出席した。9月16日～21日のAsian Chapter Meetingにてアジアにおける水文地質研究に関して議論した。日本水文科学会30周年に会長として発表し、学会の現状と水研究のあり方について議論した。地下水学会英語HPのWhat's Newに情報提供をおこなった。

8. 決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名：該当する理事はいない。

9. 議事録作成者：理事 町田 功

10. 理事会資料

- 資料 1 : 2017年度 第6回理事会 議事次第
- 資料 2 (1種) : 2017年度 第5回理事会議事録 (案)
- 資料 3 (1種) : 企画委員会資料
- 資料 4 (1種) : 行事委員会資料
- 資料 5 (1種) : 渉外委員会資料
- 資料 6 (6種) : 編集委員会資料
- 資料 7 (1種) : 調査・研究委員会資料
- 資料 8 (1種) : 市民コミュニケーション委員会資料
- 資料 9 (1種) : 広報・IT委員会 (当日配布)
- 資料10 (3種) : 若手支援・男女共同参画委員会資料
- 資料11 (1種) : 技術者継続教育委員会資料
- 資料12 (1種) : 会計委員会資料
- 資料13 (1種) : 表彰委員会資料 (当日配布)
- 資料14 (8種) : 総務委員会資料
- 資料15 (3種) : 水循環基本計画対応WG資料

【審議事項】

第1号議案：(資料2)

- ・ 2017年度 第5回理事会議事録 (案) の内容が確認され、承認された。

第2号議案：(企画：資料3)

- ・ 次年度の春季講演会 (埼玉大学) の前日 (5/18) にDarcy Lectureを開催する旨、林正貴教授に確認した。地下水学会は林先生が来日する周知メール等はするものの、大学等での講演会に対しては特に関与はせず、大学等の担当者 (先生方) にお任せすることを確認した。

第3号議案：(調査・研究委員会：資料7)

- ・ 水循環基本計画対応WGが、どのようにして自然科学系WGの調査研究グループのメンバーを集いスタートさせるのか、について議論がなされた。現状リーダーは決まっていない (候補者はいる)。継続して審議が必要となった。
- ・ 予算は計上しているが、実際には弁当代程度にしか使われていない。トップダウン型のグループのガバナンスでは、グループのメンバーが多すぎて旅費などは支給できない、という問題点が議論され、継続して検討することとなった。

第4号議案：(市民コミュニケーション：資料8)

絵本の出版

- ・ 若年層に対する水循環の知識の普及を目的とすることと、協力してくれる出版社を探す努力を行うこととなった。
- ・ 出版社が見つかった場合、その内容等を報告すること、特に学会が意図しない方向にはならないよ

う留意すること、内容の方針に変更が生じそうなときは理事会に報告することが決定した。

- ・ イラストレータに描画を依頼する場合、著作権がないことが指摘された。
- ・ 小学生の自由研究用に模型の作り方（例えばペットボトルを使ったダルシー流れの実験装置）をHPに載せるなどの、書籍出版によらない方向性も考えたかどうかという意見（蛭原理事）があり、継続して検討することとなった。

出前講座

- ・ 社内研修のための講師派遣が可能か、という質問に対しては、ひとまず、市民コミ委員として会員を紹介することとして対応することとなった。講師（講演者）は日本地下水学会の所属ではなく、個人として受けていただくこととなった。
- ・ 市民コミのHPの文言を修正する。出張講演の相談ではなく会員を紹介する形にすることとなった。
- ・ 講演依頼の場合は事務局対応である。一般市民への対応であること明確化した方が良いという意見を受け、事務局で対応することとなった。

第5号議案：（YEPS：資料10）

- ・ 資料10-1には「平成28年度若手地下水研究助成 成果報告」との記載があるが、終了報告とすべきではないか、との意見があり、規定を確認し、それに沿った修正を行うこととなった。また学会誌での報告者はYEPS委員会名とすることとなった。
- ・ 資料10-3の事業名称については「平成30年度 若手地下水研究助成」とすることとなった。
- ・ 資料10-3の「平成30年度 若手地下水研究助成」の審査方法について、過年度は全ての申請に対して書類審査とヒアリング審査の両方を実施していたが、今後は書類選考を一次審査とし、ヒアリング審査（二次審査）に進む者を選別する形式とすることとなった。会告文は適切に修正する。

第6号議案：（会計：資料12）

- ・ 会計委員長より資料の説明があり、会員資格喪失処分案について審議され4名の処分が決定された。

第7号議案：（総務：資料14）

- ・ 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）への参加依頼について審議された。自然科学系にも同様の連絡会があり、なぜ人文社会科学系なのかという質問があった。なお、日本地下水学会は自然科学系の連絡会に所属しておらず、両者の関連性を調べる必要があるものの、参加しない方針となった。
- ・ 再来年に60周年を迎えるにあたり、記念事業を行う必要性について審議が行われ、派手なものとはせず、特集号の発刊などを検討したらどうか、という意見を踏まえ、行事委員会、編集委員会で議論することとなった。（資料14-3～14-5）。
- ・ 西武鉄道の沼袋駅周辺の地下化工事に関する問い合わせについて、「くらしを守る共同組合ネットワーク沼袋」の木村氏より勉強して理論武装したいので教えてくれる専門家を紹介して欲しい、との連絡があり、審議の結果、学会内では対応しないこととなった。
- ・ 共催依頼をうけたとき、可否に関する再確認が必要であるとの意見が出され、共催を受ける場合と受けない場合の閾値をどこにおくか、について今後、議論を行うこととなった。
- ・ 入退会員について、承認された。

【報告事項等】

1. 企画委員会（資料3）

企画委員長より、以下の報告がなされた。

- ・ 8月3日～4日に実施されたセミナー「地下水シミュレーション（入門）講習会」の収支報告。
- ・ 10月5日～6日に実施された「はじめての揚水試験講習会」の開催報告。17名の参加。若手の参加が多い。収支は次回理事会にて報告。
- ・ 企画委員会主催事業の開催報告。会誌第3号掲載用に編集委員会へ提出した。
- ・ 大学向けの地下水入門書について大学の先生にアンケートを実施する予定である。

2. 行事委員会（資料4）

行事委員長より、以下の報告がなされた。

- ・ 10月12～14日に実施予定の2017年秋季大会について報告された。1日目にシンポジウムがある。若手発表者の採点担当は既に依頼済みである。
- ・ 第23回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会について。申し込み状況の項に参加者136人と書かれているが、これは発表者を除く数。すなわち合計参加者は326人である。古川理事より標記研究集会事務局長の連絡先について質問があり、前川氏であることが確認された（CPDの受講証明書の発行に関連する連絡が必要のため）。
- ・ 2018年春季・秋季大会について。シンポジウムの項にて記載されている西条高校について質問があった。西条高校は当該地にて地下水調査等を実施しており、スーパーサイエンススクールにも選ばれていることなどが説明された。

3. 渉外委員会（資料5）

渉外委員長より、以下の報告がなされた。

- ・ 地球惑星科学連合次期代議員選挙について、候補者説明と登録区分ごとの定数と候補者数について説明がなされた。
- ・ 地球惑星科学連合2018年大会のセッション案について、四学会による水環境・水循環などのほか、岡山大の齊藤光代氏が代表のセッションも共催の話が来ている、との報告があった。

4. 編集委員会（資料6）

編集委員長欠席により、編集委員の中川氏より以下の報告がなされた。

- ・ 第59巻3号（8月号）は9月上旬出版（資料6-2）
- ・ 11月号のすぶりんぐについて。IAH参加の報告。伊藤理事よりまだ投稿可能か、との質問があり、入稿締め切り10/26との返答がなされた（資料6-3）。
- ・ Editorial Managerにより査読期間の短縮化が行われたことが報告された。初回査読結果の報告までの期間について、導入前は平均43日だったものが導入後は24日である旨が説明された。論文の採択率に関する質問があり、5割程度ではないかとの回答がなされた。HPへの簡易マニュアルの掲載を検討中との報告がなされた（資料6-4）。
- ・ 資料6-5の新ジャンル「地域論文」について。他誌のジャンルの説明の後、「地域論文」の定義の説明がなされた。その結果、地域論文が論文より格下とも読める箇所（「オリジナルなものでなく～」）

の修正の必要性や、現状でもジャンルが「資料」「短報」「技術報告」など多数があること、特に「資料」との違いなどについての議論がなされた。「地域論文」を現状のジャンルに含めることができないか、あるいは現状のジャンルも多すぎるようにも思われる、といった意見があり、現状のジャンルの整理が必要との結論に至った。

- ・ 誌面講座（仮称）「経験・実例にもとづく現場地下水のノウハウとポイント」について、講座は1年間程度を検討しているとの報告がなされた（資料6-6）。

5. 調査・研究委員会（資料7）

- ・ 調査・研究委員長より各グループの開催予定の報告があった。

6. 市民コミュニケーション委員会（資料8）

- ・ 市民コミュニケーション委員長より2週間後に湧水めぐりを実施するとの報告があった。

7. 広報・IT委員会（資料9）

- ・ 広報・IT委員長より、学会HPの更新状況について報告があった。
- ・ 第2回広報・IT委員会（9月14日開催）の議事内容について報告があった。
- ・ 学会HPへのアクセス状況について報告があった。

8. 若手支援・男女共同参画委員会（YEPS）（資料10）

YEPS委員長より、以下の報告がなされた。

- ・ 平成28年度「若手地下水研究助成」成果の公表について、3名には掲載されることを確認済み。
- ・ 秋季講演会における「若手セミナー」について、参加申し込みが少ないので、可能な限りアルバイトの学生も途中参加できるよう、行事委員長に配慮を依頼した。

9. 技術者継続教育委員会（資料11）

- ・ 技術者継続教育委員長より、ジオスクーリングネット掲載行事について報告された。
- ・ CPDの発行条件に関する質問があり、共催にもCPDを発行する旨が回答された。

10. 会計委員会（資料12）

- ・ 会計委員長より、会員数・会費納入状況・収入・支出状況（9月30日現在）について報告があった。
- ・ 11月15日に内閣府公益認定等委員会事務局（大臣官房公益法人行政担当室）の立ち入り検査があり、監事（2名）・総務委員長・会計委員長・事務局長・事務局員で対応することが報告された。
- ・ 次回の理事会で2018年度の第1次予算案の仮審議を行うため、各委員会の予算案を11月29日までに会計委員長宛に所定のフォーマットで提出するよう依頼があった。

11. 表彰委員会（当日配布）

事務局の友澤氏より下記の報告があった。

- ・ 対象となる賞とその基準についての修正が行われたことが報告された。
- ・ 表彰の種別と授与物に関して修正がおこなわれた（論文賞については、人数分の賞状およびメダ

ル1名、研究奨励賞については賞状1名分)。

12. 総務委員会 (資料 14)

総務委員長より下記の報告がおこなわれた。

- ・ 協賛、共催関係について報告があった際、理事が共催を提案する際は、バックグラウンドを考えた上で提案することが確認された。
- ・ 会員募集文書、寄付金募集文書、自治体向けアンケートについて、文書案を提示した(資料 14-7)。
- ・ 男女共同参画学協会連絡会の(有償の)報告書、シンポジウム冊子については購入しないことが確認された(資料 14-8)。
- ・ 経費削減対策について。特にヤマトのメール便が82円から152円に上がる。有効な手立てがない。

13. 水循環基本計画対応WG資料 (資料 15)

- ・ (資料 15-2) 蛭原理事より、企画書案の提示があった。目標の部分にて修正がある。

【旧】

(将来) 各地域の地下水に関する取組、課題、意見交換会概要等を事例集として公表

(短期) 地域の実績、知見等を把握し、水循環基本計画見直しへの提言等に反映

【新】

(短期) 各地域の地下水に関する取組、課題、意見交換会概要等を公表

(将来) 地域の実績、知見等を把握し、水循環基本計画見直しへの提言等に反映

- ・ 2年間試行的に4回行い、「資料」などで報告したらどうか、という提案があった。
- ・ 分担については、自治体に文責を負わせないようにすることが確認された。
- ・ 安曇野市との意見交換会の進行役は蛭原理事になった(資料 15-3)
- ・ 学会側の参加人数が多すぎるので、蛭原理事が出席者の案を再作成することになった。

以上をもって議事が終了したので、議長は19時15分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名、押印する。

2017年12月9日

公益社団法人日本地下水学会 理事会